



## 学習指導研究発表会 10月20日(水)

### 「わかる」を自覚し楽しむ子どもの育成

～「めあて」と「ふりかえり」を生かし、自他の考えをつなげる場を大切に学習を通して～

10月20日(水)岩田小学校研究発表会が行われました。豊橋市教育委員会をはじめ市内小中学校の先生方、約350名をお招きし、令和元年度より3年間の学習指導の研究、実践の成果が公開授業を通じて発表されました。私たちPTA役員も学校内の案内役をさせていただきながら、いわたっ子タイム、公開授業の見学をさせていただきました。



↑他校の先生たちが、真剣なまなざしで授業を参観しています。



普段の授業風景と変わらない中にも、先生も児童も緊張感があるように感じました。岩田小の先生がテーマに沿った成果を授業の中で披露する。他校の先生も、ポイントをしっかりとメモをとりながら、学んでいました。その後、各教科ごとに研究協議会が行われ、助言者担当の先生からのアドバイス、振り返りが行われました。市内の小中学校で毎年行われている発表会ですが、この繰り返し、学ぶ子どもの更なる成長と、先生方の指導のスキルアップにつながっていくのだと感じました。



←豊橋市教育委員会より委嘱を受け、3年間かけて実践研究が行われました。岩田小学校で行われるのは20年ぶりだそうです。

一人の保護者として、こういった貴重な学びの場を見ることができたのは、とてもありがたいと思いました。

先生方も大変お疲れさまでした。

## 岩田校区青少年健全育成会より 講演会「いのちの授業」が行われました。

10月22日(金)岩田校区青少年健全育成会より、腰塚勇人氏をお招きし、「命の授業 ～ドリー夢メーカーと今を生きる～」と題し講演会が行われました。4・5・6年生は体育館、1・2・3年生と保護者の方々はライブ配信で講演会を聴講しました。健全育成会役員として、体育館にて参加ができましたので、その様子をお伝えします。

腰塚氏は自らに降りかかった困難に一時は絶望しながらも、周りの人々の温かさに触れたことで、命の大切さに改めて気づきます。懸命にリハビリを行い、社会復帰を果たすと同時に自らの体験を通して周りの人々を大切にできる存在でありたいと考えるようになりました。

あなたにとってのドリー夢メーカーは誰ですか？あなたは誰かのドリー夢メーカーになっていますか？聴く人の魂をゆさぶられる言葉のひとつひとつ。



♡♡♡「ドリー夢メーカー」とは♡♡♡

自分の可能性を信じ夢を実現しようとする人、誰かの夢を知り応援しようとする人、誰かのありのままの存在を認め、思いやり、寄り添って生きる人のことです。

腰塚先生が話す言葉は、とても温かい中にも、厳しい過去、困難を乗り越えて生きてきた人としての強さを感じました。一人一人に「命の大切さ」「ドリー夢メーカー」とは、語り掛けるような内容に、子どもたちも引き込まれていき、真剣なまなざしで聴いていました。

「あなたは一人じゃない。必ず助けてくれる人がいるから。もっと親や教師を信じていいんだよ」と話してくださいましたが、果たして自分は親として子どもにとって「助けて」という言葉を受け止めてあげられる存在であるか？改めて考える時間となりました。周りの人たちの「ドリー夢メーカー」でいるためには「自分」をまず大切にするという、当たり前のことを何気なく行動に移せる人でありたい。子どもの「ドリー夢メーカー」でいたいと思いました。



☆☆☆命がよろこぶ「5つの誓い」☆☆☆

- 目は、人のよいところを見るために使おう
- 耳は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう
- 口は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう
- 手足は、人は助けるために使おう
- 心は、人の痛みがわかるために使おう

←参加した全員にステッカーをいただきました。わたしは会社のデスクに貼りましたよ！



腰塚勇人氏 プロフィール  
1965年、神奈川県生まれ。  
元中学校体育教師。  
元養護学校教師。

スキーでの大事故をきっかけに、全身マヒの体に。その後、懸命のリハビリにより社会復帰できるまでに回復し、事故をきっかけに人生も人生観も大きく変化。現在は「命の授業」の講演を通して命の大切さを訴えている。

## 先生に問こう！第4弾

学校には先生以外にもいろいろな人が仕事をしているみたいだよ。どんな人たちかな？ということで、今回は事務職員の小玉さん、佐藤さんにズバリ！聞いてみました。

鳥井：本日はお忙しい中ありがとうございます。

まず自己紹介からお願いします。

小玉：小玉雅也（こだま まさや）です。大学を卒業後、旧鳳来町の小学校、新城市の小学校、下地小学校、岩田小学校が4校目になります。豊川市出身です。

佐藤：佐藤愛音（さとう あいね）です。専門学校を卒業して4月から岩田小学校に勤務しています。浜松市出身です。

鳥井：早速お仕事の内容を伺いたいのですが、「先生」という呼び方ではないですよね。

佐藤：学校事務職員が正式な名称です。

小玉：子どもたちの学校環境の整備を中心とした仕事です。学校預り金に関する事務、教材の整備計画や購入、管理など学校の運営に必要な予算関係の業務を行っています。また、教育委員会とのパイプ役として教育行政の仕事、教職員の給与をはじめとする総務的な仕事も大事な役割です。

鳥井：学校を運営していく上で大切な役割であることは、業務内容からも伺えますね。

小玉：学校は教員中心の行政機関ですので、事務職員は異質な存在だと思います。逆にそこが強みでもあるので、教員とは違った目線で、法的知識を抑えた上で、意見を出すことで、学校運営に携わるという視点を大切にしています。

鳥井：このお仕事を目指すきっかけなどは教えて下さい。

佐藤：子どもと関わるお仕事をしたかったのが一番のきっかけです。

小玉：自分はあるメーカーの海外営業の仕事もしてみたくて、今の職業と悩みましたが、やはり地域に貢献できる仕事を、と思いこの仕事と選択しました。

鳥井：事務職員さんとして大変だなと思う部分があれば教えてください。

佐藤：児童数も多く大変ですが、特に転入出に関わる手続き、教材等の発注など、突発的な業務が他校と比べて多いのかな、と思います。学校預り金などを調整することは大変ですが、先生方と連携をとり円滑に進められるよう努めています。

鳥井：PTAに関わってみて、一般会計や特別会計など、普段なら知らないことも、今改めて知ることが出来るのですが、決して潤沢でない予算をどう有効に活用できるのか。もっと子どもの為に使えるお金があったらと思うことがよくあります。

小玉：確かにそういった学校を運営するに必要なお金の流れ、



使途などは保護者の方々にも分かりやすく開示できるようになれば良いな、と思います。横浜市では実際そういったものは開示しています。ちなみに、岩田小学校の運営予算は600万円ほどですが、児童一人あたりに換算すると少なく感じます。使い道の優先順位も先生方とよく協議しながら予算を執行していくことも重要なことですね。

鳥井：備品類の調達であれば購入以外にも他校からもらい受けることもありますよね。

小玉：児童数の少なくなった学校から机、椅子をいただいたり、音楽に必要な楽器なども、要望を出し譲り受けたりすることもあります。

鳥井：大変多岐に渡るお仕事の中で、やりがいや楽しいと感じる場面はありますか。

佐藤：今回、コロナ禍ということもあり、給食の配膳を教職員で行っているのですが、そのお手伝いをする中で、単に事務職員だからといって、机にずっと向かっているのではなく、児童の笑顔を見ていられることがうれしく思っています。

鳥井：学校という環境ならではの良いところですね。

ちなみにどのような子ども時代を過ごしていましたか。

佐藤：小学校高学年からずっと吹奏楽に打ち込んでいました。ユーフォニアムという楽器を担当していました。あまり聞きなれない楽器ですが、見た目は大きなトランペットのようで、小さなチューバのようにも見えます。音色もとても優しいですよ。

鳥井：姪っ子も高校で吹奏楽をやっていました。ホルン担当だったそうです。

小玉：子どもの頃はお寺に秘密基地を作ってよく怒られていました。家でマンガやゲームもしていましたが、やはり外で遊ぶことが多かったですね。

鳥井：私も毎日、宿題やらで外で遊んでいました。ファミコンもありましたが、やはり外遊びが中心でしたね。

あと、好きな給食はありますか。

小玉：カレーライスです。あの味は家庭では絶対に出せません。ナンやソフト麺もありますが、やはりライスです！

佐藤：プリンが好きです。あと好き嫌いではないですが、愛知県独特の味噌の味付けがなかなか慣れないですね。

鳥井：愛知県は他県から見ると、ちょっと独特ですよ。

苦手な方、多いかも。

(つづく ⇒)

鳥井：最後になりますが、児童たちにエールを、保護者に一言あればお願いします。

小玉：私たちは「正解のない」時代に生きています。新しい答えを発見し、持続可能な社会をつかっていくためには、多様性と認め合いが重要だと思います。岩田小学校にはその土台がすでにあります。この恵まれた環境に感謝し、挑戦できる人になってほしいと思います。

佐藤：地域と学校が率直な意見、素朴な質問、そして違和感と言える、そんな地域、保護者、学校になれるようなチームを目指して、ともに岩田の子を見守っていきましょう。

鳥井：本日はありがとうございました。



(※今回も撮影時のみマスクを外しています。)

## 第2回学校保健委員会 9月30日(木)

今回のテーマは「5, 6年生を対象に目の健康について知ろう～目の疲れはどこから～」と題し、株式会社ニデック(蒲郡市)の中村さんが分かりやすくお話をしてくださいました。保健委員の皆さんによる「岩田っ子劇場」では、ふだんの生活と目の疲れの関係に対して、疑問を投げかけます。中村さんは、なぜ目は悪くなるのか。目が悪くなると将来やりたいお仕事ができなくなってしまうこと。日々の心がけて近視の予防ができることなど、スライドを使って分かりやすく説明をしていただき親である私も大変勉強になりました。最近ではコロナ禍ということもあり、家で過ごす時間も多くなり、テレビやゲームの画面を見る時間も多くなりました。タブレット端末も普及し、より目を使うことが多くなりました。今回、聞いた内容を家族でも話し合い、共通認識を持つことが、近視の進行の予防につながると感じました。

(学校保健委員会担当：吉田)



近視にならないために・・・

- ★姿勢を良くしてモノと目の間隔は30センチ以上とるようにする。
- ★20-20-20ルールを取り入れる。(20分間続けて近くを見た後は、20フィートおよそ6メートル以上離れたものを、20秒間眺める)
- ★デジタル機器は、画面の大きいものを使うようにする。(スマートフォン<タブレット端末<テレビ)

～一緒に参加して下さった保護者の声～

- ・講師の先生のお話がとても分かりやすく、児童たちにすごく響いたと思います。子どもが5年生なので自己コントロールと家族での取り組みを意識していきたいです。
- ・最近、どうしてもスマホなどを使ってしまうことが多いので、今の時代に合わせてどう対処したらよいか参考になりました。
- ・家でもゲームを長時間やらない、近すぎると話をしていましたが、今日のお話でなぜダメなのかというのを詳しく分かりやすく説明して下さい、子どもたちにしっかり伝わったと思います。
- ・常にわかっていても、改めて話を聞くと身が引き締まる。子どもにもしっかり伝えたい。姿勢、近視、睡眠など。体も疲れます。今日の話参考に自分の生活を気をつけるようにしたい。
- ・ゲームやユーチューブなど今の子どもたちの生活にあった話をしてくれて、睡眠や朝食の大切さを伝えてくれてよかった。最後の振り返りで大事なことをまとめてくれてわかりやすかったし、親としても気をつけて生活していこうと思います。今日は参加してよかったです。よいお話をありがとうございました。

(参加保護者アンケートより抜粋)

□□□編集後記□□□

食欲の秋とは言いますが、その言葉につられて最近体重が増えました(汗)。これから運動会、ランフェス、どんどこまつりと行事ごとが目白押し！いろいろ校内を駆けずり廻れば少しはダイエット効果があるかなあ…。後半戦もがんばって駆け抜けます！次回もお楽しみに！

(編集長 鳥井)